

「佐渡金銀山」保存・活用行動計画  
令和元年度事業 点検・評価調書

4-II-4

4-II-4

章	第4章 世界遺産登録に向けた来訪者の受入体制整備		取組項目	バリアフリー機能の導入
	節	II. ガイダンス機能・ガイド体制の充実		
事業(施策)名	4 バリアフリー機能の導入		事業主体	佐渡市世界遺産推進課
			関連団体	県文化行政課、佐渡地域振興局企画振興部
事業実施期間	H28～R元			
事業概要	【事業目的】 ○各種施設や説明媒体におけるバリアフリー機能の導入により、様々な来訪者への利便性向上を図る。			
	【事業内容】 ○説明媒体に点字や音声ソフトなどのバリアフリー機能を導入する。			
R元 事業計画と実績	【元年度計画】 ●史跡整備基本計画及び文化的景観(相川地区)の整備計画の策定作業のなかで、遺跡等の見学に伴うバリアフリー機能の導入について検討する。			
	【元年度実績】 ●史跡整備基本計画策定作業において、バリアフリー機能の導入について検討を行ったうえ、本文にその基本的方針を記載した。			
課題・今後の取組	【課題】 ■鉱山遺跡という特質上、公開場所によってはバリアフリー導入が困難な場所もあるため、代替となる情報提供等の対策が可能かどうか検討する必要がある。 ■今後も整備事業が継続されることから、事業終期の見直しを図る必要がある。			
	【今後の取組】 ■策定した史跡整備基本計画に基づき、個別事業の実施時に具体的なバリアフリー機能の仕様や導入有無について検討する。			
事業評価	【事業の達成度】 ◇計画どおり、目標を達成できたことからBとした。 [ a (b) c ]			
	【事業実施の効果】 [ a (b) c ]			
	【総合評価】 [ A (B) C ]			

a: 進んでいる。高い。  
b: 概ね順調。概ね適切。  
c: 遅れている。低い。

A: 計画を上回る進捗で、十分な成果が得られている。  
B: 概ね計画どおり進んでおり、一定の成果が得られている。  
C: 計画から遅れが見られ、十分な成果が得られていない。